


NPO法人 町田ハンディキャブ友の会

〒194-0013 東京都町田市原町田4-24-6
第67号 発行責任者 石井 章夫

Tel : 042-721-5721 Fax : 042-721-6605
発行日 2024年2月1日

 内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰
内閣府特命担当大臣表彰 奨励賞 を受賞しました



理事長 石井 章夫
新しい年を迎え、私たちの活動は50周年に向けて順調にスタートしました。

昨年は、創立40周年を迎えて2月に記念式典を開催しました。また、年末に内閣府より「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」の対象になったとの通知があり、12月27日総理官邸において加藤鮎子特命担当大臣から「内閣府特命担当大臣表彰・奨励賞」を受賞いたしました。表彰式の後、岸田総理と加藤担当大臣が受賞団体の活動を展示したテーブルをまわり、町田ハンディキャブ友の会40年の活動の重みを感じ取っていただきました。

表彰にあたっては、40年続けてきた「移送サービス事業」と施設のバリアフリー等の情報を掲載した「バリアフリーマップの作成」が評価されたと思っております。このことは、町田市、町田市社会福祉協議会等関係団体の多大なるご支援・ご協力の賜物と思っております。あらためて感謝いたします。
このたびの表彰を励みに今後も精進してまいりますので、引き続き皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

●内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰

内閣府では、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点からその推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させる目的で、平成14年からバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を行っています。

●内閣府特命担当大臣表彰奨励賞

この度、当団体が「発足から40年間にわたり、障害者の”外出”の足として、「福祉輸送」や、ホームページ「バリアフリーマップ」の運営等を通じて、移動困難者を始めとする市民の外出機会の拡大に貢献してきた功績が認められ、内閣府特命担当大臣表彰奨励賞を受賞しました。（今年度は他に、内閣総理大臣表彰2件、特命担当大臣表彰優良賞2件、特命担当大臣表彰奨励賞1件の表彰がありました。）

●表彰式

12月27日（水）、総理官邸において、岸田総理大臣および加藤勲子内閣府特命担当大臣ご臨席のもと、表彰式が行われ、当団体を代表して石井理事長と井上事務局長が出席しました。岸田総理のご挨拶の後、加藤担当大臣より賞状と記念の盾が授与されました。



総理官邸の会場にて



岸田総理・加藤担当大臣と受賞した皆さんと



加藤担当大臣より表彰状授与

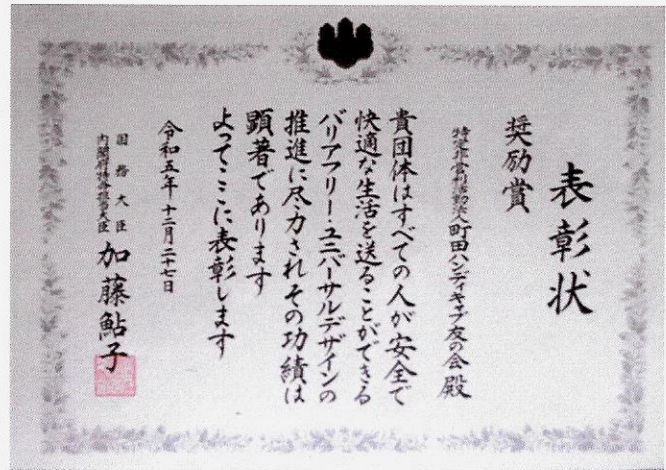


岸田総理に当会の活動を紹介する石井理事長

※本表彰や表彰式の様子等は、
内閣府ホームページも御参照ください。
<https://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/hyousho.html>



記念の盾




表彰状




町田市役所において

●町田市長表敬訪問

内閣府特命担当大臣表彰奨励賞の受賞を受けて、1月25日(木)、町田市役所において、理事及び事務局職員で、町田市長へ表敬訪問を行いました。
石井理事長から石阪市長へ、受賞の経緯や授賞式当日の様子などを報告し、引き続きのご支援ご協力をお願いしました。



ドライバーのつれづれ日記



露崎 幸生

町田ハンディキャブ友の会の仕事に従事して1年1ヶ月になります。

当初はご利用者のお宅にお迎えに行く時、道が分からず不安な気持ちになりました。地図を見ても分からない時などは、先輩方々のアドバイスでなんとか勤めることが出来ました。只今では、道も詳しくなり、無難に勤めています。

この仕事で嬉しい事は、ご利用者からいただく感謝のお言葉です。その様な時には、自分でも多少社会貢献が出来ているのかと感ずることが出来ます。

私は他に町田交通安全協会第一支部の一員ですので、無事故・無違反を心掛けて、ご利用者に不安な気持ちを持たれない様に安全運転に努める所存です。

今後もご利用者に喜んでいただける様に、明るく対応して送迎に従事する心算ですので、今後も宜しくお願い申し上げます。



石阪市長へ報告

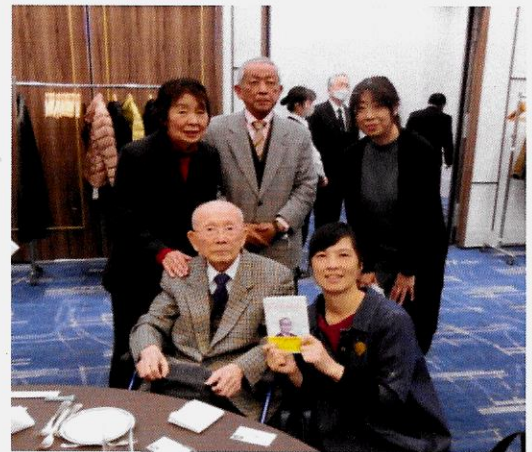
●能登半島地震に際して被災された皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。
当団体では被災地への支援活動として、「きょうざれん自然災害支援基金」へ募金を行いました。今後、被災地から要望があった場合、福祉車両の貸与等の支援を行う予定です。

事務局だより

大下市長の訃報に際して

去る12月28日、元町田市長の大下勝正さん（96歳）が逝去されました。大下さんは、JR原町田駅移転に伴うまちづくりを行い、小田急新原町田駅と町田駅に統合しました。「車いすで歩けるまちづくり」を掲げ、発展させ、車いす専用車の開発、車いすのスロープの傾斜などの

基準づくりを行い、全国に発信しました。我が国もバリアフリーの先駆けです。大下さんは「福祉の町田」は多くの市民参加によって実現できたと話されていきました。私たちの活動もその一つです。大下さんのご冥福をお祈りいたします。



40周年記念式典において

シリーズ・ことば

名詩への旅

白い自由画

丸山 薫

「春」という題で
私は子供達に自由画を描かせる
子供達はてんでに絵具を溶くが
塗る色がなくて 途方に暮れる

ただ まっ白い山の幾重りと
ただ まっ白い野の起伏と
うっすらした墨色の陰翳の所々に
突き刺したような疎林の枝先だけだ

私はその一枚の空を
淡いコバルト色に彩ってやる
そして 誤って まだ濡れている枝間に
ぼとり！ と黄色の一と雫を滲ませる

私はすぐに後悔するが
子供達は却ってよろこぶのだ
「ああ まんさくの花が咲いた」と
子供達はよろこぶのだ

（「日本の名詩」大和書房 —— Nabe選）

《編集後記》

うす壁にぐんぐと寒が入りにけり（一茶）

どうやってもかけるべき言葉の見つからぬ、寒い寒い夜明けである。

2024年1月1日午後4時10分。年明けの団欒をおそつた能登半島、震度7の惨劇——「子どもが、助かかって！」「小中生ら13人連絡とれず」「やけど、入院断られ4日後、5歳児息を引き取る、母「ごめんね」

あまりに残酷すぎる被災地の絵、ほんとに寒々として悲しみに満ちた年明けになってしまいました。けれども、ハンディキャブの長年に渡る地道な活動（長い目でみれば、こうした活動が、悲劇の被災地の皆さんへの、お力添えもできるはず）が認められ、東京都（国からの表彰を受けるといいます）から表彰を受けます。今年も力強い一歩を踏み出しましょう。さあ、踏み出しましょう！

（2024.2.15報紙1回）